



ゆかり通信

VOL. 323

令和 6 年 12 月

SENSHOJI YUKARI NEWSLETTER

1994-2024

北海道千歳市清水町1-14 鶴竇山 千正寺

TEL: 0123-23-2442 FAX: 0123-24-9883

ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2024年千正寺カレンダー 12月の言葉



除夜の鐘
御恩と鳴って感謝と響く

早いもので今年ももう師走を迎えました。お寺では毎年大晦日、除夜の鐘を行っていて大勢の方々が突きに来て下さいます。お寺の鐘の音を聞きながら年を越す、風情豊かな日本古来の文化が続いています。「ごーん」という鐘の音が「ご恩」と聞こえた。この一年も阿弥陀様の救いに照らされ過ごさせていただいた。その阿弥陀様のご恩、また多くの方々に支えられ過ごさせていただいたこの一年のご恩をかみしめながら、感謝のうちに年が明けて行く、そうした思いが伝わる今月の言葉です。

「二階から孫の足音聞こえる 我を励ます太鼓小太鼓」

この歌は私の父が作った短歌です。我が家は二世帯で暮らしていて、一階が父母、二階が私たち家族五人。二階から毎日聞こえている孫の賑やかな足音が自分を励ましてくれている。孫と一緒に生活できていることが、生活の糧になっている。父は若い頃から短歌が趣味でした。そんな父も今は認知症になり短歌は作らなくなりました。それでも毎日続けている習慣が三つあります。「朝夕のお参り」・「境内の掃除」・「晩酌」です。認知症になると記憶や時間が曖昧になるようで、朝夕のお参りは四・五回する日もあります。（晩酌は一回です）私が二階にいて、下からお経の声が聞こえたなと思った三〇分後、また下からお経の声が聞こえてくるのが幾度となくあります。そんな中で、父が書いた短歌の私の返歌が

「仏間より 夕事たびたび聞こえる 念仏勤む 親の呼び声」

夕事とは夕方のお参りのことで、何度も仏間から聞こえてくる父のお経の音が、「お念仏だぞ」「お念仏しかないぞ」と私に響いてきた思いを歌にしました。大晦日、どうぞご家族で除夜の鐘を突きに来て下さい。お待ちしております。
(本文：鹿谷賢純法務員)